

## 令和4年度 東京都立八王子北高等学校 学校経営報告



### スクール・ミッション

生徒・保護者及び地域の期待と信頼を踏まえながら、確実に進化を続ける中堅校として、変革する未来に逞しく生き抜く人材を輩出するために、自ら学び、考え、挑戦する態度を迫及する探究手法を身に付け活用し、社会貢献意識を持って実行し、自己実現を粘り強く図れる、協働力のある人間性豊かな人材を育成します。

### 1 教育目標

本校の教育目標を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、グローバル社会で社会貢献し自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成するために、次の4つを教育目標とする。

- (1) 自主自律
- (2) 文武両道
- (3) 地域貢献
- (4) 挑戦 ～未来に向けて グッド トライ～

### 2 スクール・ポリシー

#### (1) グラデュエーション・ポリシー

新たな時代にたくましく生き抜く人間力の育成を目指し、具体的に次の3つの力を育成する。

- ① 探究力を備え、課題解決に臨める力
- ② 失敗を恥じることなく粘り強く自己実現に挑戦する力
- ③ 良き社会人として協働し、社会貢献に取り組める力

#### (2) カリキュラム・ポリシー

- ① 少人数制授業・習熟度別授業を展開し、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成する。
- ② 1、2年次は全員で幅広く教科を学習し教養を確実に身に付け、3年次の自由選択科目で自己実現を図るための学力を育成する。
- ③ 全教育活動において、探究的学習手法を学び、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する。
- ④ 学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり文武両道を実践しながら、生徒の自主自律の精神と協働力を育成する。
- ⑤ 探究学習において地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識育成する。

#### (3) アドミッション・ポリシー

本校では、次の項目に当てはまる生徒の入学を期待する。

- ① 学習成績が良好で評定の高い教科をもち、進路実現に向けて努力できる生徒。
- ② 本校入学後の学習活動や部活動等の目標を明確にもち、挑戦する意欲的な姿勢をもてる生徒。
- ③ 中学校3年間の出席状況が良好であり、基本的な生活習慣を身に付け、社会貢献への姿勢と意識の高い生徒。
- ④ 部活動や中学校以外の活動に原則3年間積極的に取り組み、入学後も部活動を続け、学校生活において協働できる生徒。

### 3 グランドデザイン

#### 目指すべき生徒の将来像（20年後の生徒の姿）

持続可能で創造的な福祉社会の担い手を育成するために自分の能力を生かしてゆける人間として成長する。



#### 見つけられる力（育成すべき資質・能力）

- (1) 知識・技能・身につける学力  
高校上位で、大学受験に対応できるような学力を身につける。
- (2) 思考力  
論理的思考を身に着け、実際の行動と一致できる。
- (3) 判断力  
行動の優先順位をつけ、他者との間で調整する能力。
- (4) 表現力  
自分の判断や思考を使って他者を説得し、行動できる。
- (5) コミュニケーション力  
クラスの意見をまとめ一つの方向性を出せる。
- (6) 規範意識  
学校全体のルールを考え学校全体で共有できる。
- (7) 課題解決力  
進路実現に向けて具体的な進路を探究する。
- (8) 協働性  
他者への想像力を育み、高度な協同性を發揮できる。

### 4 目指す学校

本校の教育目標及び地域の期待を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、変革する未来に身に付けた探究手法を活用し、社会貢献し、自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成する。

#### ① 生徒の可能性を伸ばし、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、文武両道に励み、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成し、生徒の個々の可能性を伸ばす進路指導を丁寧に行い、生徒の希望する進路を実現する学校にする。

#### ② 学校教育活動により、自主自律を育成する学校

学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり部活動と学習の両立を実践しながら、生徒の自主自律の精神を育成する学校にする。

#### ③ 地域貢献を実践し、自尊意識を高められる学校

学校地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識育成する学校にする。

#### ④ 新たな時代にたくましく生き抜く人間力を育成する学校

生徒が、積極的に挑戦する気概を醸成し、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する学校にする。

## 5 今年度の数値目標の達成状況に基づく「成果」と「課題」

【 】内は令和4年度まで3～5年間の実績値推移で赤字が今年度の結果

### 目標1 計画的な業務遂行により時間外勤務時間45時間以上 0人

【45時間以上5.5人→6人→7人→5人、80時間以上1.3人→3人→0人→2人、100時間以上0.5人→0人→0人→0人】

#### (成果)

- 年間を通じて、92%の教職員が超過勤務（月80時間）以内を維持できた。
- 学校評価アンケートにおいて、「働き方改革に取り組んでいる」と肯定的な意見は教員71%。

#### (課題)

○学校閉庁日の設定や男性教員の産休取得、短期介護休暇等を取得できる環境整備をさらに進める。そのため、担当業務の平準化や部活動顧問の複数配置を推進する。

さらに、次年度、「学習支援コンテンツ」を導入し、効率的指導方法を実践していく。

### 目標2 入学者選抜の最終応募倍率 推薦3.50倍 学力検査1.30倍

【推薦：3.5→3.7→3.5→2.92→3.2→2.82 学力検査：1.55→1.39→1.35→1.30→1.04→1.30】

#### (成果)

- 教務部を中心として、教職員全体制で、中学校訪問や塾訪問等の広報活動を実践し、応募倍率の向上を図った。
- 学力検査、昨年の1.04倍から今年度、1.30倍となり、募集倍率を大きく向上させた。

#### (課題)

○次年度も募集倍率を向上させるため、計画的な学校案内パンフレットの作成を組織的に進める必要がある。具体的には、1年生による母校訪問（1学期期末考査終了後から夏季休業開始前）の実施に併せて「新規学校案内パンフレット」を完成させるよう、各分掌や部活動、経営企画室等とスケジュールを綿密に調整する必要がある。

○「学校案内パンフレット」と併用して、「ハチ北探究パンフレット」を作成し、本校の特色である「探究学習」を中学生及び保護者向けに作成し、広報活動に活かしていく。

### 目標3 広報活動を充実させ、学校説明会の来校者数・配信動画視聴者数（中学生、保護者）3,000人以上

【900人→1520人→565人→1153人（但しYouTube動画視聴2556回→557回）→2431人→1822人】

#### (成果)

- コロナ感染症対策を講じながら、対面による学校見学会、学校説明会や個別施設見学会を充実させた。
- 夏季休暇中に、学校見学会に参加できない学生及び保護者向けの施設見学会（1日3組限定）を開催し、丁寧に対応した。

#### (課題)

○次年度、コロナ「5類」への移行等の状況を踏まえながら、対面による学校見学会、学校説明会の開催規模を検討する。学校見学会については、回数を増やし、募集対策の強化も検討する。

### 目標4 本校ホームページ・Twitterの充実によりアクセス回数120,000回以上

【80,000回→170,000回→110,000回→609,578回】

#### (成果)

○学校ホームページを刷新し内容を充実させるとともに、新たな情報発信として学校Twitterを有効活用した。

#### (課題)

○ICTリーダーが一手に学校ホームページやTwitterの管理を担っており、PC委員会を組織的に運営していくことが課題である。

## 目標5 地域と連携した探究学習活動 10回

【9回→11回】

### (成果)

- 今年度、夏季休業中を活用してのフィールドワークを実施することができ、成果発表会を開催することができた。成果発表会では、探究委員会より「評価基準」を策定し、その基準を基に、八王子市役所や檜原中学校管理職、檜原小学校コーディネーター等、外部識者より講評及び表彰いただく体制づくりを構築した。
- 今年度、「地域探究推進校」の指定を受け、ユニクロやGoogle等の主催する「服のチカラプロジェクト」に参加。本校が拠点校となり、「小中高連携（松枝小学校・檜原小学校・檜原中学校）による探究活動を実践した。  
\*この活動は令和5年1月2日付日本教育新聞に掲載された。
- 修学旅行における広島県立加計高校との「地域探究学校間交流」を実現させた。
- 「探究講演会」や「子供を笑顔にするプロジェクト」等の講演会や芸術鑑賞会を開催した。これにより、生徒に「自分の生き方や在り方」を考える教育活動を実践した。
- 「令和4年度高校生まちづくり提案発表会」等の八王子コンソシアーム発表会に参加。八王子市長へ高校生の視点で今後のまちづくりについて提言した。

### (課題)

- 「地域探究」から「進路探究」へ繋げる系統的な探究活動に発展させることが課題である。
- 次年度、「探究部」を始動させ、授業の枠を超えた探究活動を展開し、充実を図る。

## 目標6 「考える・表現する」を育成する授業改善検証として2学期期末考査での言語表現・考察力・初見問題

出題割合100%

【75.1%→98.0%】

### (成果)

- 新教育課程の実施にあたり「指導と評価の一体化」を目指すため、「観点別評価教科別実践研修会」を実施した。研修会では、教科ごと、評価の方法や評価の材料、その配点等について発表し、各教科の抱える課題として「主体的に学習に取り組む態度」が可視化され、解決方法について具体的に話し合うことができた。また、2学期定期考査において、「知識・技能」だけでなく、「思考」を見とる問題を全教科で出題するよう取り組んだ

### (課題)

- 次年度に向けて、教育課程検討委員会を中心に「評価計画」を策定し、シラバスづくりを本格化する。統一した基準で、「評価」し、生徒・保護者に公開する。
- 教科・横断による「相互授業参観」を積極的に実施し、生徒に「どのような力が身に付いたのか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図る。

## 目標7 平日家庭学習1時間以上の割合1学年60%、2学年40%

【1学年：13%→14%→14.7%→20.5%→23.6%→59.0% 2学年：15.0%→14.0%→14.3%→27%→18.9%→16.8%】

### (成果)

- 今年度、学年を中心とした一般選抜組（GEE）の放課後講習会を始動した。年々、4年制大学への進学希望者が増加しており、進路希望を実現に向けて、中長期的な取り組みを継続していくことが必要である。

### (課題)

- 「中だるみ状態をいかに小さくしていくか、勉強をあきらめない生徒をいかに増やしていくか」が課題。次年度、「学習支援コンテンツ」等を活用しながら、各自の進路・意欲に沿う形の「個別最適化された学習スタイル」を確立する。

## 目標8 夏期・冬期講習会の充実 30講座・参加人数(延べ)150名

【37講座・参加人数(延べ)224名】

### (成果)

○進路指導部が中心となり、講習会の「見える化」及び「学校全体の雰囲気」を向上させた。

### (課題)

○「講座の魅力化、特色化」については途上である。教員の専門性を活かした講座や総合型選抜の対策に有用な「探究的な講座」の設置を検討する。

## 目標9 3年間を見据えた進路指導により

(ア) 大学・短大進学者数75人以上

【73人→60人→49人→58人→65人→74人】

### (成果)

○年々大学進学者は増加していて、高度化・専門化する社会の状況に対応できている。総合型選抜における受験者、合格者も増加しており、「行きたい大学に行く」土壌も醸成されつつある。

### (課題)

○今後は探究活動へ積極的に取り組んだ生徒を、いわゆる「難関大学」の総合型選抜にチャレンジさせていく流れを作っていけるかが課題である。

(イ) 就職率(就職希望者に対して)の100%維持

【100%→100%→100%→100%→100%→100%】

### (成果)

○18歳人口の減少により、高卒生就活市場は依然として好調。本校においては、進学希望者の増加により、民間就職希望者自体が減少の一途をたどっている。

### (課題)

○公務員(消防・警察)採用試験に2名が合格し、目標を達成することができたが、公務員(事務系)採用試験への学校対応も課題である。予備校などと連携して、対策講座を開いていくことが対策の一つである。

## 目標10 資格取得

日本漢字能力検定：3級 5名、準2級 20名、2級 10名

【3級 5名、準2級 10名、2級 1名】

### (成果)

○校内受検を年に3回実施している。全校生徒に漢字検定に受検の案内を配布し、受検を促した。夏期講習で講座対策を実施し、また、検定直前にも演習講座を実施した。目標人数に達することはできなかったため、次年度に向けて努力していきたい。

### (課題)

○前年度に比べ、受検者が減少した。次年度では、漢字検定にチャレンジする生徒が増加するよう生徒に受検を促す。

実用英語技能検定：3級 8名、準2級 14名、2級 4名

【3級 4名、準2級 16名、2級 2名】

### (成果)

○英語科として、校内受検を1年に2回開催し、全校生徒に英検の要項を配布し、英検受検を促した。英検1次対策としては、2年生では、夏期講習で準2級、2級講座を実施、また必修選択科目コミュニケーション英語Iの授業で準2級対策を行った。3年生でも、夏期講習で準2級、2級講座を実施、自由選択科目 Basic English の授業で準2級対策を行った。

さらに、1次試験合格者に対しては、英語科教員全身体制で2次試験対策を個別に行った。目標人数に達することはできなかったが、準2級は、目標人数14名に対して16名と生徒は健闘したと思われる。

**(課題)**

○本校は、指定校推薦入試、総合型推薦入試を希望する生徒がほとんどを占めている。総合型推薦入試では、準2級以上の資格を持っていると、入試で英語の点数に得点換算されたり、小論文を免除される大学もある。そのため、生徒に早い段階から、英検合格の大学優遇措置について告知し、準2級以上を目指すよう、支援していく。

世界遺産検定：4級 6名、3級 2名、2級 1名

【4級 1名、3級 1名、2級 0名】

**(成果)**

○歴史や文化に親しみ、教養を深める生徒の支援をすることができた。

**(課題)**

○受験者の増加が課題である。啓蒙活動に力を入れていく取り組みが必要である。

防災士：10名

【19名】

**(成果)**

○防災士は受講者22名中、19名が合格し、大きな成果を得た。合格者には、校長室で表彰式を実施した。

**(課題)**

○次年度も教育庁指導部指導企画課と連携し、資格取得に向けて取り組んでいく。

上級救命講習：200名

【200名】

**(成果)**

○防災委員会を中心として、生徒が主体的に上級救命講習会に参加し、自助・共助・公助について体験的に学び、防災意識を高めることができた。

**(課題)**

○次年度も年間行事計画に位置付け、所管消防署と連携し、防災教育として進めていく。

**目標11 活動加入率83%**

【83%→83%→81%→74%→79%→78%】

**(成果)**

○原則、在校生徒全員の加入を推奨し、高い加入率を維持できている。

**(課題)**

○学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）が示され、今後の部活動の在り方も検討する必要がある。

**目標12 SCやYSWと連携した教育支援を充実させ、中途退学生徒 3人以下**

【7人→5人→7人→1人→0人→1人】

**(成果)**

○SC、YSWと密に連絡を取り合い、カウンセリング等を通し問題解決に近づけた。

**(課題)**

○カウンセリングの希望は無いがそこに繋げたい生徒の把握や方法などはまだまだ検討の必要がある。